

かながわ介護職員初任者研修(通学課程)カリキュラム

事業者名 一般社団法人神奈川県高齢者福祉施設協議会

研修事業名 かながわ介護職員初任者研修(通学課程)

1 職務の理解 (6 時間)		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
① 多様なサービスの理解	1.0	・介護保険における居宅及び施設サービスの種類と、サービスが提供される場の特性を理解する。 ・介護保険外のサービスの種類と、サービスが提供される意義や目的を理解する。
② 介護職の仕事内容や働く現場の理解	5.0	・ケアマネジメントを通じて、介護サービスを提供するまでの流れを理解する。 ・介護サービスの内容や利用者像などを通じて、介護職の仕事内容や働く現場を理解する。 ・チームアプローチの必要性和具体的な連携方法を理解する。 【演習】 ・視聴覚教材から、多様な居宅、施設サービスの働く現場について学び、各施設の違いや気付いたことについてグループ討論と発表を行い、理解を深める。 ・業務内容紹介DVD視聴

2 介護における尊厳の保持・自立支援 (9 時間)		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
① 人権と尊厳を支える介護	6.0	・利用者の人権と尊厳について理解を深める。 ・介護に関する基本的な視点(ICF、QOL、ノーマライゼーション)について学ぶ。 ・虐待防止、身体拘束禁止の法律を知り、尊厳ある対応について考える。 ・利用者の権利を擁護するための制度の種類や内容について学ぶ。
② 自立に向けた介護	3.0	・介護における自立とは何かを学ぶ。 ・「その人らしさ」を尊重するために介護職として配慮すべき点について理解する。 ・介護の予防の考え方について理解する。 【演習】 ・検討事例を示し、自立支援、介護予防という考え方に基づいたケアについて各自(グループ)で検討し、ワークシートを作成し発表する。

3 介護の基本 （ 6 時間 ）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
① 介護職の役割、専門性と多職種との連携	2.0	・施設と在宅の違いや地域包括ケアの方向性などについて学ぶ。 ・介護の専門性について考え、専門職に求められるものについて学ぶ。 ・多職種連携の目的を学び利用者を支援するさまざまな専門職について理解する。
② 介護職の職業倫理	1.0	・介護職が持つべき職業倫理を学ぶ。 ・日本介護福祉士会倫理綱領を参考に介護職にかかわる倫理綱領を理解する。
③ 介護における安全の確保とリスクマネジメント	1.5	・利用者の生活を守る技術としてのリスクマネジメントの視点を学ぶ。 ・事故防止、感染症対策などから利用者を守る仕組みについて学ぶ。 【演習】 ・うがい、手洗いの手順をふまえ実践し、感染予防の基本を理解する。
④ 介護職の安全	1.5	・介護職の健康管理が介護に与える影響を学び、介護職自身の健康管理の必要性を理解する。 ・介護職の起こりやすい心と体の病気や障害について学ぶ。 ・介護職自身の健康管理の方法(病気や障害の予防と対策)について学ぶ。 【演習】 ・腰痛体操等を体験し、腰痛予防を意識する。

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 （ 9 時間 ）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
① 介護保険制度	4.0	・介護保険制度が創設された社会的背景を理解したうえで、制度の目的と動向について学ぶ。 ・介護保険制度の基本的な仕組みやその組織と役割を理解するとともに、制度の財政について学ぶ。
② 医療との連携とリハビリテーション	2.0	・施設や在宅における介護職と医療行為の実情と経過について理解する。 ・訪問看護の役割りを理解し、介護職との連携について理解する。 ・施設及び在宅における介護職と看護職の役割・連携について理解する。 ・リハビリテーションの理念と考え方について理解する。 【演習】

		・居宅サービス、施設サービスにおける医療と福祉の連絡等の事例に基づき、介護職、医療職、家族等それぞれの役割を作り、グループでロールプレイを行い学習する。
③ 障害福祉制度及びその他制度	3.0	・障害者福祉制度における障害の概念について、その歩みをふまえて学ぶ。 ・障害者自立支援制度の基本的な仕組みについて理解する。 ・個人の権利を守る制度（個人情報保護法・成年後見制度等）を理解し、代表的なサービスを知る。

5 介護におけるコミュニケーション技術（6時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
① 介護におけるコミュニケーション	4.0	・対人援助におけるコミュニケーションの意義、目的、役割を理解し、その技法について理解する。 ・事例を通して、利用者・家族の状況・状態に応じたコミュニケーションの実際を理解する。 【演習】 ・2～3人1組となり、話し手と聴き手の体験をし、ワーク終了後に感想や気づきを共有する。
② 介護におけるチームのコミュニケーション	2.0	・介護における記録の意義と目的を理解し、書き方の留意点などについて学ぶ。 ・チームとしてコミュニケーションをとるために必要な報告・連絡・相談の意義と目的を理解し、具体的な方法を学ぶ。 ・会議の意義と目的を理解し、具体的な進め方について学ぶ。 【演習】 ・事例についてグループで話し合いケースを理解する。 ・事例に基づいて記録作成の演習を行い、書き方を理解する。

6 老化の理解（6時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
① 老化に伴うこころとからだの変化と日常	3.0	・高齢者に多い心身の変化、疾病の症状等について、具体例を基に老化についての考え方などについて理解する。 ・老化が及ぼす心理や行動には個人差が大きいことについて理解する。 ・老化とともに社会的環境が本人の心理や行動に与える影響について理解する。 ・身体的老化現象が日常生活に与える影響について理解する。 【演習】 ・バイタルサインの測定を体験し、習得する。

② 高齢者と健康	3.0	・高齢者の多くにみられる症状や訴えがどのような疾病から起こるのかなど、その特徴について理解する。 ・高齢者に多い病気の原因や特徴、その病気を抱える高齢者の生活上の留意点について理解する。
----------	-----	--

7 認知症の理解（ 6 時間 ）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
① 認知症を取り巻く状況	1.0	・「認知症の諸症状を中心としたケア」から「その人を中心としたケア」に転換することの意義を理解する。 ・認知症を問題視するのではなく、人として接することを理解する。 ・できないことではなく、できることを見て支援することを理解する。
② 医学的側面からみた認知症の基礎と健康管理	2.0	・老化の仕組みと脳の変化を学び、認知症の原因を理解する。 ・認知症に類似した症状を持つ疾病について学ぶ。 ・認知症の主な原因疾病の病態、症状について学ぶ。 ・認知症の症状を知り、どのようなケアが必要かを学ぶ。
③ 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	2.0	・認知症の人の心理・行動と人間関係や生活歴等といった環境との関係、生活障害について理解する。 ・病気の症状があってもその人の尊厳を守る視点を持つことについて理解する。 【演習】 ・事例を通じて、認知症の高齢者とのコミュニケーションについての対応を演習し理解する。
④ 家族への支援	1.0	・認知症を受容する過程において、家族へのエンパワメントの視点を学ぶ ・家族介護者の大変さについて理解し、レスパイトの重要性学ぶ。 ・家族とは支援していくだけの存在ではなく、ともに認知症の人を支えていくパートナーであることを学ぶ。 【演習】 ・事例を通して、認知症の高齢者を支える家族の思いを理解し介護職員としてどのように支えられるかについて理解する。

8 障害の理解（ 3 時間 ）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
① 障害の基礎的理解	0.5	・ICF(国際生活機能分類)に基づきながら「障害」の概念について理解する。 ・障害者福祉の基本理念(ノーマライゼーション、インテグレーション)

		ション)について理解する。
② 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	2.0	- 様々な障害（身体障害・知的障害・精神障害等）の医学的特徴を理解する。 - 障害に伴う心理的影響、障害の受容を理解する。 - 障害のある人の生活を理解し、介護上の留意点について学ぶ。 【演習】 - 障害の理解をした後、障害による生活の不便さを話し合い、支援方法を検討する。
③ 家族の心理、かかわり支援の理解	0.5	- 家族に対する支援は家族介護の肩代わりだけではなく様々な支援があることを学ぶ。 - 家族の負担軽減(レスパイトサービス)の課題について学ぶ。

9 こころとからだのしくみと生活支援技術 （ 7 5 時間 ）			
	項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
基本 知 の 学 習	① 介護の基本的な考え方	2.0	- 介護理論の変遷を学び、理論に基づく介護の重要性を理解する。 - 介護の法的変遷について理解する。
	② 介護に関するこころのしくみの基礎的理解	4.0	- 人間の学習と記憶及び感情と意欲に関する基礎的な知識を理解する。 - 自分としての存在感や生きがいについて理解する。 - 老化や障害の受容に関する基礎的知識を理解する。
	③ 介護に関するからだのしくみの基礎知識	6.0	- 生命の維持に必要な仕組みを理解する。 - 骨や関節など体の動きのメカニズムを理解する。 - 神経の種類とその働きを理解する。 - 目や耳、心臓をはじめとする体の器官の働きを理解する。
生活 支 援 技 術 の 講 義 ・ 演 習	④ 生活と家事	6.0	- 生活を継続するための家事の重要性に、生活歴や多様な生活習慣、価値観が大きくかわることを学ぶ。 - 生活支援としての家事援助(調理、洗濯、掃除など)に関する基礎知識を身につけ、主体性・能動性を引出した生活支援を行うことが予防的な対応になり、自立支援につながることを理解する。 【演習】 - 共に行う介護の視点を養うために、どのような家事が利用者と一緒に行え、安全に行うためにはどこに配慮すべきか話し合う。
	⑤ 快適な居住環境整備と介護	4.0	- 安心して快適に生活するために必要な環境の整備とは何かについて学ぶ。 - 住まいにおける安心・快適な室内環境の確保の仕方について学ぶ。 - 高齢者や障害のある人が生活する中で、住宅改修や福祉用具

		を利用する意味や視点を学ぶ。 【演習】 ・福祉用具・機器の紹介と使用方法等について体験する。
⑥ 整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	4.0	・整容の必要性和整容に関連する体の仕組みや心について理解する。 ・利用者本人の力を活用した整容の介護を行うための技術を身につける。 【演習】 ○洗面介助 ・顔の清拭 ○衣類の着脱介助 ・前開きの上衣(ゆかたを含む。)の着脱
⑦ 移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	10.0	・移動・移乗の必要性和それに関連する体の仕組みや心について理解する。 ・利用者本人の力を活用した移動・移乗の介護を行うための技術を身につける。 ・心身機能の低下が移動・移乗に及ぼす影響について理解する。 【演習】 ○車いすのたたみ方、広げ方 ○水平移動 ○体位変換 ・仰臥位から側臥位へ ・起き上がりから端座位へ ・端座位から立位へ ○歩行の介助 ・平地歩行(3動作歩行・2動作歩行) ・段差越え ・階段昇降 ・視覚障害者の移動介護 ○ベッド、車いす間の移乗 ・ベッドから車いすへ ・車いすからベッドへ ○車いすの介助 ・段差越えの介助 ・段差を下るときの介助
⑧ 食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6.0	・食事の必要性和それに関連する体の仕組みや心について理解する。 ・利用者本人の力を活用した食事の介護を行うための技術を身につける。 ・口腔ケアの目的と効果を理解し、ケアの方法を学ぶ。

		・心身機能の低下が食事に及ぼす影響について理解する。 【演習】 ・食事の介助 ・口腔ケア
⑨ 入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	8.0	・入浴・清潔保持がもたらす心身への効果と入浴に関連する体の仕組みや心について理解する。 ・利用者本人の力を活用し、楽しい入浴の介護を行うための技術を身につける。 ・心身機能の低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響について理解する。 【演習】 ・入浴の介助 ・手浴及び足浴の介助 ・洗髪の手介助 ・全身清拭の介助
⑩ 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6.0	・排泄の必要性和それに伴する体の仕組みや心について理解する。 ・利用者本人の力を活用し、楽しい排泄の介護を行うための技術を身につける。 ・心身機能の低下が排泄に及ぼす影響について理解する。 【演習】 ・トイレ内での排泄 ・ポータブルトイレを利用した排泄 ・紙おむつ交換 ・陰部清浄
⑪ 睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	4.0	・睡眠の必要性和それに伴する体の仕組みや心について理解する。 ・心地よい睡眠を支援するための知識と技術を身につける。 ・心身機能の低下が睡眠に及ぼす影響について理解する。 【演習】 ・敷シーツの交換 ・コーナーの作り方
⑫ 死にゆく人に関したところとからだのしくみと終末期介護	3.0	・終末期とはどのような時期かを学ぶ。 ・終末期から死までの身体機能の変化について理解し、状況にあわせた対応を学ぶ。 ・死に直面したときの人の心理状況について理解し、心の変化の受け止め方を学ぶ。 ・医師、看護師、介護職、相談員、リハ課、栄養課すべての職種が、臨終にむけての小さな変化も共有し最善の対応を検討できるよう、多職種間の情報共有の必要性を理解する。

			【演習】 ・終末期の各時期に合わせたケアの注意点、配慮すべき点について話し合う。
生活支援技術	⑬ 介護過程の基礎的理解	4.0	・介護過程の目的と意義について理解する。 ・介護過程の展開プロセスについて理解する。 ・チームアプローチにおける介護職の役割と専門性について理解する。 【演習】 ・事例に基づき個別支援計画を作成する。
演習	⑭ 総合生活支援技術演習	8.0	・利用者の心と体の力が発揮できない要因を分析する。 ・利用者本人にとって適切な支援技術は何かを検討する。 ・利用者の心身の状況に合わせた介護を提供する視点について理解する。 【事例による演習】 ・グループごとに必要な情報の抽出と確認を行い、適切な支援技術の検討を行う。 ・検討した技術を練習し、その後評価（１人５分）を行う。

10 振り返り（４時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
① 振り返り	3.0	・研修全体についてどのようなことを感じたのかを聞き、研修の効果を定着する。 ・研修全体を振り返り、学んだことについて再確認をする。 ・これまでの研修で理解しにくかった事について質疑応答を行い、研修全体をまとめる。 【演習】 ・利用者の自立を支援する介護のあり方について、研修での学びを含め話し合う。 ・利用者の状態像に応じた介護と介護過程について、研修での学びを含め話し合う。
② 就業への備えと研修修了後における継続的な研修	1.0	・研修終了後も自己研鑽が必要なことを理解する。 ・職場内研修(OJT)、職場外研修(OFF-JT)を活用し、キャリアアップをすすめ介護の専門家となることが期待されていることを理解する。 【演習】 ・初任者研修修了後、就業に際し自身にとってさらに必要な学びとは何か話し合う。
全カリキュラム合計時間		130 時間

※ 規定時間数以上のカリキュラムを組んでもかまわない。

※ 本研修で独自に追加した科目には、科目名の前に「追加」と表示すること。

○ 追加科目

科 目	時間	内 容
就労ガイダンス①	3.0	・就労までの流れの説明 ・職業紹介事業についての説明 ・求人票、求職票についての説明 ・介護現場で必要となるコミュニケーションの説明
就労ガイダンス②	3.0	・認知症サポーター研修の実施 ・個別面接の実施
就労ガイダンス③	4.0	・就労に必要な労働法規の説明
就労ガイダンス④	2.0	・就労に必要な労働法規の説明 ・就労にあたっての心構えの説明
就労ガイダンス⑤	2.0	・介護現場における福祉の心の説明 ・個別面接の実施
就労ガイダンス⑥	2.0	・福祉に携わる者として必要な福祉の心の説明 ・個別面接の実施
就労ガイダンス⑦	3.0	・高齢者福祉施設職員による介護現場業務の説明 ・個別面接の実施
就労ガイダンス⑧	2.0	・施設が利用者にとって生活の場であることの説明 ・就労に係る質疑応答 ・個別面接の実施
合計時間	21 時間	